

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2023年8月10日

【四半期会計期間】 第19期第2四半期(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

【会社名】 アトラグループ株式会社

【英訳名】 Artra Group Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 久世 博之

【本店の所在の場所】 大阪市西区立売堀四丁目6番9号

【電話番号】 06-6533-7622 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 田中 克典

【最寄りの連絡場所】 大阪市西区立売堀四丁目6番9号

【電話番号】 06-6533-7622 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 田中 克典

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第2四半期 連結累計期間	第19期 第2四半期 連結累計期間	第18期
会計期間	自 2022年1月1日 至 2022年6月30日	自 2023年1月1日 至 2023年6月30日	自 2022年1月1日 至 2022年12月31日
売上高 (千円)	2,169,141	2,108,179	4,671,498
経常利益又は経常損失() (千円)	21,222	57,618	15,178
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期純損失() (千円)	25,671	71,675	2,104
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	15,376	64,619	5,463
純資産額 (千円)	1,286,316	1,253,456	1,307,156
総資産額 (千円)	4,367,724	4,160,805	4,652,439
1株当たり当期純利益 又は1株当たり四半期純損失() (円)	2.63	7.31	0.22
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	29.4	30.1	28.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	175,496	9,749	132,554
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	64,932	36,726	154,172
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	335,088	177,761	314,624
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,259,976	1,009,905	1,234,142

回次	第18期 第2四半期 連結会計期間	第19期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純損失() (円)	0.73	0.24

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 第18期第2四半期連結累計期間及び第19期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。第18期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の子会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当社グループが属する鍼灸接骨院業界におきましては、療養費が減少傾向にあり、自費施術及び物販の拡大が課題となっております。

このような状況の下、当社グループは、各種セミナーの開催、ほねつぎチェーンの加盟院の増加、自費施術に使用する機材の販売、アトラ請求サービスの会員の増加、HONEY-STYLEの利用院の増加に取り組みました。

また、株式会社ペリカンにおいて、玩具販売の拡大に取り組みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が2,108,179千円（前年同期比2.8%減）、営業損失が65,417千円（前年同期は営業損失が13,290千円）、経常損失が57,618千円（前年同期は経常損失が21,222千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失が71,675千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失が25,671千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりであります。

（鍼灸接骨院支援事業）

当セグメントの売上高は1,326,539千円（前年同期比0.8%減）、営業損失は27,107千円（前年同期は営業損失が66,672千円）となりました。

支援内容別の概要は以下のとおりであります。

・ほねつぎチェーン

既存の鍼灸接骨院の加盟促進及び直営店の売上拡大等に注力しました。

この結果、売上高は249,467千円（前年同期比6.1%減）となりました。

・機材、消耗品販売

療養費が減少傾向となる中、自費施術に使用する機材の需要は拡大しております。当社グループは、アトラアカデミーにおいて、動画の充実に取り組み、会員の増加を図っております。また、セミナーの開催をとおし、自費施術に使用する機材の拡販に取り組んでおります。

また、鍼灸接骨院専門ECサイトであるアトラストアでは、あしたの私をつくるケアカタログ「トトリエ」を発行し取扱商品の拡充を図りました。

この結果、売上高は373,733千円（前年同期比6.7%減）となりました。

・アトラ請求サービス

新規開設院の入会及びA-COMSファイナンスサービス利用院の拡大等に注力しました。

この結果、売上高は263,631千円（前年同期比2.6%減）となりました。

・HONEY-STYLE

鍼灸接骨院の口コミ/予約システムであるHONEY-STYLEの利用院増加に注力しました。

この結果、売上高は62,567千円（前年同期比25.7%増）となりました。

・介護支援

ほねつぎデイサービスの加盟店開発、既存加盟店のロイヤリティ収入の拡大及び直営店の売上拡大等に注力しました。

この結果、売上高は267,987千円（前年同期比30.4%増）となりました。

・その他

売上高は109,152千円（前年同期比24.8%減）となりました。

(玩具販売事業)

ペリカンにおいて、玩具・文具等の拡販に注力しました。

この結果、当セグメントの売上高は781,639千円（前年同期比6.0%減）、営業損失は32,228千円（前年同期は営業利益52,182千円）となりました。

財政状態の概況は以下のとおりであります。

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ491,633千円減少し、4,160,805千円となりました。これは主に、現金及び預金が224,237千円、営業貸付金が23,202千円、商品が61,341千円及び投資有価証券が26,997千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ437,933千円減少し、2,907,349千円となりました。これは主に、買掛金が213,445千円及び長期借入金が159,284千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ53,699千円減少し、1,253,456千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失を71,675千円計上したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、1,009,905千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な内訳は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、9,749千円の支出（前年同期は175,496千円の支出）となりました。主な内訳は、資金の増加要因として、減価償却費の計上66,051千円、営業貸付金の減少額23,202千円、棚卸資産の減少額57,832千円、資金の減少要因として、税金等調整前四半期純損失の計上56,108千円、仕入債務の減少額213,445千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、36,726千円の支出（前年同期は64,932千円の支出）となりました。主な内訳は、資金の増加要因として、投資事業組合からの分配による収入52,923千円、資金の減少要因として、有形固定資産の取得による支出51,748千円、無形固定資産の取得による支出20,325千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、177,761千円の支出（前年同期は335,088千円の支出）となりました。主な内訳は、資金の増加要因として、長期借入れによる収入19,900千円、資金の減少要因として、長期借入金の返済による支出195,249千円であります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等について、重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,800,000
計	22,800,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,867,000	9,867,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株であります。
計	9,867,000	9,867,000		

(注) 提出日現在発行数には、2023年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年5月12日(注1)	60,000	9,867,000	5,460	732,807	5,460	759,123
2023年5月31日(注2)		9,867,000	627,347	105,460	753,663	5,460

(注1) 譲渡制限株式報酬としての新株式発行による増加であります。

発行価額 182円

資本組入額 91円

(注2) 会社法第447条第1項及び会社法第448条第1項の規定に基づき、資本金の額627,347千円(減資割合85.6%)及び資本準備金の額753,663千円を減少し、その他資本剰余金へ振り替えたものであります。

(5) 【大株主の状況】

2023年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
一般社団法人みどり会	大阪府大阪市西区南堀江3丁目9-21	2,731	27.73
蘇 乾聞	東京都渋谷区	807	8.20
エンデバー・パートナーズ株式 会社	東京都千代田区丸の内1丁目1-3	489	4.96
a uカブコム証券株式会社	東京都千代田区霞が関3丁目2番5号	324	3.29
久世 博之	大阪府大阪市東成区	307	3.12
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	272	2.77
片田 徹	大阪府堺市堺区	204	2.07
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	168	1.71
柚木 孝夫	大阪府大阪市北区	153	1.56
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目13番1号	121	1.23
計	-	5,580	56.67

(注) 上記の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 272千株

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 20,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,843,700	98,437	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 3,100		
発行済株式総数	9,867,000		
総株主の議決権		98,437	

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式66株が含まれております。

【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アトラグループ株式会社	大阪市西区立売堀四丁目 6番9号	20,200	-	20,200	0.20
計		20,200	-	20,200	0.20

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年1月1日から2023年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、協立神明監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,234,142	1,009,905
売掛金	345,385	353,476
営業貸付金	411,133	387,931
商品	710,314	648,972
その他	388,171	207,502
貸倒引当金	2,857	76
流動資産合計	3,086,290	2,607,712
固定資産		
有形固定資産	177,400	211,022
無形固定資産	227,159	204,487
投資その他の資産		
投資有価証券	743,389	716,392
その他	469,682	472,675
貸倒引当金	51,483	51,483
投資その他の資産合計	1,161,588	1,137,583
固定資産合計	1,566,149	1,553,093
資産合計	4,652,439	4,160,805
負債の部		
流動負債		
買掛金	361,353	147,908
1年内返済予定の長期借入金	401,928	385,863
未払法人税等	24,288	19,346
賞与引当金	25,080	26,540
ポイント引当金	10,492	9,295
収納代行預り金	512,091	530,069
その他	269,348	196,302
流動負債合計	1,604,582	1,315,325
固定負債		
長期借入金	1,504,807	1,345,523
退職給付に係る負債	89,976	92,710
資産除去債務	133,813	141,287
その他	12,103	12,502
固定負債合計	1,740,700	1,592,023
負債合計	3,345,282	2,907,349
純資産の部		
株主資本		
資本金	727,347	105,460
資本剰余金	903,663	1,536,470
利益剰余金	326,757	398,432
自己株式	159	159
株主資本合計	1,304,093	1,243,338
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,142	8,197
その他の包括利益累計額合計	1,142	8,197
新株予約権	1,920	1,920
純資産合計	1,307,156	1,253,456
負債純資産合計	4,652,439	4,160,805

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年6月30日)
売上高	2,169,141	2,108,179
売上原価	1,417,161	1,449,044
売上総利益	751,980	659,135
販売費及び一般管理費	1 765,270	1 724,553
営業損失()	13,290	65,417
営業外収益		
受取利息	74	110
受取手数料	3,793	4,270
助成金収入	1,518	1,473
投資事業組合運用益	1,407	6,168
その他	3,444	4,043
営業外収益合計	10,238	16,067
営業外費用		
支払利息	8,556	7,302
為替差損	2,765	-
その他	6,847	964
営業外費用合計	18,170	8,267
経常損失()	21,222	57,618
特別利益		
固定資産売却益	761	1,509
投資有価証券売却益	150	-
関係会社株式売却益	10,123	-
特別利益合計	11,035	1,509
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純損失()	10,186	56,108
法人税、住民税及び事業税	11,769	13,072
法人税等調整額	3,714	2,494
法人税等合計	15,484	15,566
四半期純損失()	25,671	71,675
親会社株主に帰属する四半期純損失()	25,671	71,675

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失()	25,671	71,675
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	10,294	7,055
その他の包括利益合計	10,294	7,055
四半期包括利益	15,376	64,619
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,376	64,619

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	10,186	56,108
減価償却費	64,892	66,051
のれん償却額	11,228	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,144	2,781
賞与引当金の増減額(は減少)	2,100	1,460
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	4,563	2,734
ポイント引当金の増減額(は減少)	2,333	1,196
固定資産除却損	0	0
固定資産売却益	761	1,509
投資有価証券売却益	150	-
関係会社株式売却益	10,123	-
受取利息	74	110
支払利息	8,556	7,302
売上債権の増減額(は増加)	2,733	8,090
営業貸付金の増減額(は増加)	78,773	23,202
棚卸資産の増減額(は増加)	38,221	57,832
仕入債務の増減額(は減少)	147,245	213,445
収納代行預り金の増減額(は減少)	43,440	17,977
その他	56,018	120,488
小計	151,444	13,805
利息の受取額	57	109
利息の支払額	8,434	7,168
法人税等の支払額	15,674	16,496
営業活動によるキャッシュ・フロー	175,496	9,749
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	37,528	51,748
有形固定資産の売却による収入	809	1,560
無形固定資産の取得による支出	25,150	20,325
投資有価証券の売却による収入	150	-
投資事業組合からの分配による収入	5,200	52,923
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	8,436	-
その他	22	19,136
投資活動によるキャッシュ・フロー	64,932	36,726
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	300,000	-
長期借入れによる収入	200,000	19,900
長期借入金の返済による支出	228,570	195,249
新株予約権の発行による支出	4,583	-
配当金の支払額	216	112
その他	1,718	2,299
財務活動によるキャッシュ・フロー	335,088	177,761
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	575,517	224,237
現金及び現金同等物の期首残高	1,835,494	1,234,142
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,259,976	1 1,009,905

【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

前連結会計年度(2022年12月31日)

重要な訴訟事件

当社は以下のとおり、2018年10月4日に訴訟を提起され、2018年10月30日にその訴状が送達され、係争中であります。

イ 訴訟の原因及び訴訟提起に至った経緯

当社は、「ほねつぎブランド接骨院チェーン」(以下「本チェーン」という。)として、接骨院の開院、運営のノウハウを提供しておりますが、以下の2社より、本チェーン加盟契約段階においての当社の説明に虚偽があり経営判断を誤らされたとして、開業のために支出した初期投資費用、開業後の営業損失、原状回復費用及び弁護士費用の支払いを求めて提起されたものです。

ロ 訴訟を提起した者の概要

名称	所在地
株式会社インバンクメント	東京都品川区
株式会社黒井商事	山口県宇部市

ハ 訴訟の内容

上記2社は、訴訟において、当社に対して合計156,322千円及びこれに対する2018年10月31日から各支払い済みまで年6分の割合による金員の支払いを求めています。

ニ 当社の意見

当社は、本チェーン加盟契約段階において虚偽の説明をして各々の法人の経営判断を誤らせたという事実はなく、当社には賠償義務はないと認識しており、かかる主張の正当性を、本件訴訟において主張してまいります。

当社は以下のとおり、2019年10月3日に訴訟を提起され、2019年11月8日にその訴状が送達され、係争中であります。

イ 訴訟の原因及び訴訟提起に至った経緯

当社は、「ほねつぎブランド接骨院チェーン」(以下「本チェーン」という。)として、接骨院の開院、運営のノウハウを提供しておりますが、株式会社リブラボより、本チェーン加盟契約段階においての当社の説明に虚偽があり経営判断を誤らされたとして、開業のために支出した初期投資費用、開業後の営業損失、原状回復費用及び弁護士費用の支払いを求めて提起されたものです。

ロ 訴訟を提起した者の概要

名称	所在地
株式会社リブラボ	東京都世田谷区

八 訴訟の内容

当社に対して148,507千円及びこれに対する2019年11月9日から支払い済みまで年6分の割合による金員の支払いを求めています。

二 当社の意見

当社は、本チェーン加盟契約段階において虚偽の説明をして経営判断を誤らせたという事実はなく、当社には賠償義務はないと認識しており、かかる主張の正当性を、本件訴訟において主張してまいります。

当第2四半期連結会計期間(2023年6月30日)

重要な訴訟事件

当社は以下のとおり、2018年10月4日に訴訟を提起され、2018年10月30日にその訴状が送達され、係争中であります。

イ 訴訟の原因及び訴訟提起に至った経緯

当社は、「ほねつぎブランド接骨院チェーン」(以下「本チェーン」という。)として、接骨院の開院、運営のノウハウを提供しておりますが、以下の2社より、本チェーン加盟契約段階においての当社の説明に虚偽があり経営判断を誤らされたとして、開業のために支出した初期投資費用、開業後の営業損失、原状回復費用及び弁護士費用の支払いを求めて提起されたものです。

ロ 訴訟を提起した者の概要

名称	所在地
株式会社インバンクメント	東京都品川区
株式会社黒井商事	山口県宇部市

八 訴訟の内容

上記2社は、訴訟において、当社に対して合計156,322千円及びこれに対する2018年10月31日から各支払い済みまで年6分の割合による金員の支払いを求めています。

二 当社の意見

当社は、本チェーン加盟契約段階において虚偽の説明をして各々の法人の経営判断を誤らせたという事実はなく、当社には賠償義務はないと認識しており、かかる主張の正当性を、本件訴訟において主張してまいります。

当社は以下のとおり、2019年10月3日に訴訟を提起され、2019年11月8日にその訴状が送達され、係争中であります。

イ 訴訟の原因及び訴訟提起に至った経緯

当社は、「ほねつぎブランド接骨院チェーン」(以下「本チェーン」という。)として、接骨院の開院、運営のノウハウを提供しておりますが、株式会社リブラボより、本チェーン加盟契約段階においての当社の説明に虚偽があり経営判断を誤らされたとして、開業のために支出した初期投資費用、開業後の営業損失、原状回復費用及び弁護士費用の支払いを求めて提起されたものです。

ロ 訴訟を提起した者の概要

名称	所在地
株式会社リブラボ	東京都世田谷区

八 訴訟の内容

当社に対して148,507千円及びこれに対する2019年11月9日から支払い済みまで年6分の割合による金員の支払いを求めています。

二 当社の意見

当社は、本チェーン加盟契約段階において虚偽の説明をして経営判断を誤らせたという事実はなく、当社には賠償義務はないと認識しており、かかる主張の正当性を、本件訴訟において主張してまいります。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
給与及び手当	262,777	227,871
貸倒引当金繰入額	1,242	2,764
賞与引当金繰入額	6,753	6,417
退職給付費用	9,457	4,762
ポイント引当金繰入額	2,721	2,281

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
現金及び預金	1,259,976	1,009,905
現金及び現金同等物	1,259,976	1,009,905

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、2023年3月29日開催の定時株主総会の決議に基づき、2023年5月31日付で減資の効力が発生し、資本金が627,347千円、資本準備金が753,663千円それぞれ減少し、この減少額全額を其他資本剰余金へ振り替えました。

また、2023年5月12日を払込期日とする譲渡制限付株式報酬としての新株式発行により、資本金が5,460千円、資本準備金が5,460千円それぞれ増加しております。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が105,460千円、資本剰余金が1,536,470千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	鍼灸接骨院 支援事業	玩具販売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,337,257	831,884	2,169,141	-	2,169,141
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,337,257	831,884	2,169,141	-	2,169,141
セグメント利益又は損失()	66,672	52,182	14,490	1,200	13,290

(注) 1 セグメント利益又は損失()の調整額1,200千円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失()は、連結財務諸表の営業損失()と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	鍼灸接骨院 支援事業	玩具販売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,326,539	781,639	2,108,179	-	2,108,179
セグメント間の内部 売上高又は振替高	54,504	-	54,504	54,504	-
計	1,381,044	781,639	2,162,683	54,504	2,108,179
セグメント損失()	27,107	32,228	59,336	6,080	65,417

(注) 1 セグメント損失()の調整額 6,080千円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント損失()は、連結財務諸表の営業損失()と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	鍼灸接骨院支援事業	玩具販売事業	計	
ほねつぎチェーン	265,697	-	265,697	265,697
機材、消耗品販売	396,429	-	396,429	396,429
アトラ請求サービス	270,637	-	270,637	270,637
HONEY-STYLE	49,793	-	49,793	49,793
介護支援	205,518	-	205,518	205,518
玩具販売	-	831,884	831,884	831,884
その他	145,086	-	145,086	145,086
顧客との契約から生じる収益	1,333,163	831,884	2,165,048	2,165,048
その他の収益	4,093	-	4,093	4,093
外部顧客への売上高	1,337,257	831,884	2,169,141	2,169,141

当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	鍼灸接骨院支援事業	玩具販売事業	計	
ほねつぎチェーン	249,467	-	249,467	249,467
機材、消耗品販売	370,962	-	370,962	370,962
アトラ請求サービス	263,631	-	263,631	263,631
HONEY-STYLE	62,567	-	62,567	62,567
介護支援	267,987	-	267,987	267,987
玩具販売	-	781,639	781,639	781,639
その他	109,152	-	109,152	109,152
顧客との契約から生じる収益	1,323,769	781,639	2,105,408	2,105,408
その他の収益	2,770	-	2,770	2,770
外部顧客への売上高	1,326,539	781,639	2,108,179	2,108,179

(注) 当第2四半期連結会計期間より、鍼灸接骨院支援事業の「フィットネス関連」は、金額的重要性が低下したため「その他」に含めて記載する方法に変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間は、注記の組替えを行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純損失()	2円63銭	7円31銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	25,671	71,675
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失()(千円)	25,671	71,675
普通株式の期中平均株式数(株)	9,757,562	9,803,308
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年 8 月 8 日

アトラグループ株式会社
取締役会 御中

協立神明監査法人

大阪事務所

代表社員
業務執行社員

公認会計士 朝 田 潔

代表社員
業務執行社員

公認会計士 角 橋 実

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアトラグループ株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アトラグループ株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。